

様式 1

平成 17 年度茨城大学社会連携支援経費申請書

茨城大学長 殿

申請者 所属 理学部  
代表者氏名 渡邊 堯

下記の本年度の社会連携支援経費を申請いたします。

1. プロジェクト名 (40 字以内)

スーパーサイエンス拠点形成をめざした近郊高等学校との連携プロジェクト

2. プロジェクトの連携先と連携内容 (別紙可)

連携先： 水戸市近郊の高等学校

連携内容：(1000 字以内、連携の方法、内容、計画、期待される成果等を具体的に明記)

水戸市近郊の高等学校と連携して、「スーパーサイエンス拠点形成」を基幹的目的として、大きく以下の三つの事業を有機的に関連させながら実施する。

- 1) 理学部で行っている学術研究の先端的分野を、水戸市近郊の高等学校の生徒および教員に対して、魅力的に紹介する「スーパーサイエンスセミナー」を6回シリーズで開催する。
- 2) 理学部が有する高度な実験設備を提供して、先端的分野の実験を高等学校の生徒および教員に実際に体験してもらう「スーパーサイエンス体験プログラム」を複数回(4回程度)開催する。
- 3) 茨城県の天文科学部(県内の高等学校の理科クラブを統括)と連携して、県内高等学校の理科クラブの総合発表会を理学部において実施する(10月30日開催予定)。

本プロジェクトは、高等学校の教員と密接に連携をとりながら、計画的かつ確実に推進する。水戸市近郊の高等学校とは、具体的には水戸第二高等学校を中心として、水戸一、三、緑岡、桜ノ牧、勝田高等学校等である。本連携プロジェクトの遂行により、以下の特色や成果を発揮できるものと期待する。

- 1) 高等学校の新教育課程において重視されている「探求活動」に関連した実験を積極的にとりあげることで、高等学校教育にも共働・貢献する。
- 2) 連携プロジェクトをとおして地域の教育力の向上とともに、高等学校の教育課程を大学側も深く理解することができ、カリキュラム改革等の大学教育にも役立てることができる。
- 3) 高等学校にアドバンス授業の材料を提供するとともに、いわゆる若年層の「理科離れ」の防止に着実に寄与することができる。
- 4) 理学部が有する高度な実験設備を有効に活用し、対外的に大学の存在意義を明確に示すことができる。
- 5) 将来的には、水戸市近郊の小、中学校とも連携して「スーパーサイエンス工房(仮称)」の設立をめざす。

申請分野 1 地域の教育力 2 地域環境形成、自治体との連携 3 産官学連携 4 学術文化 5 その他の地域との連携

3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績（別紙可）

理学部では、平成11年度から7年間継続してインフォメーションセンターで「科学セミナー」を開催している。さらに17年度前期は、「高校生のための科学セミナー」として高校生に的を絞ったセミナーを行っている。また、大学の施設を利用して、高校生のための「一日体験化学教室」も隔年実施(工学部と交互)している。すなわち、理学部は高大連携に単発的に取り組むのではなく、総合的、計画的に長年取り組んできた実績を有している。さらに今後の大学の生き残りをかけて、高等学校と実質的な連携をはかりながら、教育改革、入試改革等を行なっていきたいという強い決意のもとに本申請を行う。

4. プロジェクト参加者（含む申請者）

| 氏名    | 学部・学科等  | 職名  | 分担内容           |
|-------|---------|-----|----------------|
| 渡邊 堯  | 理学部・理学科 | 教授  | 本プロジェクトの統括     |
| 折山 剛  | 〃       | 〃   | 本プロジェクトの統括補助   |
| 大塚富美子 | 〃       | 助教授 | セミナー実施         |
| 藤間昌一  | 〃       | 〃   | 〃              |
| 百瀬宗武  | 〃       | 〃   | セミナー・体験プログラム実施 |
| 菅井俊郎  | 〃       | 〃   | 〃              |
| 森 聖治  | 〃       | 〃   | 〃              |
| 北 和之  | 〃       | 〃   | 〃              |